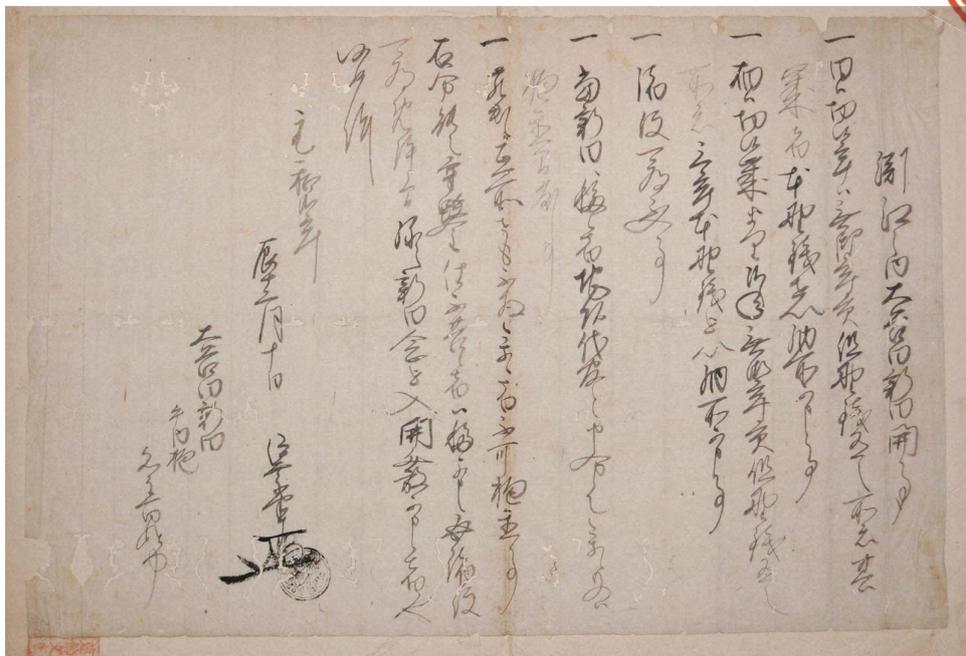


江戸時代初期の歴史を伝える古文書

所在地: 足立区立郷土博物館 ※レプリカを常設展示しています



ふち え の うち おお や た しん でん ひらく の こと 測江之内大谷田新田開之事

元和2年(1616)12月10日、幕府の代官である伊奈忠治が河合平内の配下だった大谷田の名主百姓たちに宛てて書いた古文書です。河合平内は各地の名主百姓たちを統率して、大谷田新田(足立区大谷田・中川)、普賢寺・北三谷新田(足立区東和・綾瀬・東綾瀬)・六木新田(足立区六木)などを開発しました。

この古文書には、新田開発に関する五ヶ条の決まり事が書かれています。一～三条目は、新田開発をすすめた者に対する優遇措置を定めており、年貢や諸役(雑税・夫役など)を免除することが記されています。四・五条目は、新田開発に伴い様々な場所から色々な人物がやってくるようになりますが、元の土地の地頭や代官とトラブルを起こしたような人物は居住させてはならないと定められています。

中川流域の足立区東部が開発されていく様子を伝える貴重な古文書です。

文化財豆知識

伊奈忠治ってどんな人?

伊奈忠治は、徳川家康の信頼厚く、治水の名人として知られた伊奈忠次の子です。父子そろって利根川東遷事業に携わり、治水事業に大きな功績を挙げました。父の忠次は、文禄3年(1594)に千住大橋を架橋し、子の忠治は足立区の新田開発のほか、匠橋から小菅に至る綾瀬川の開削にも携わっています。足立区にとって歴史的にとっても重要な親子でした。



伊奈忠治像(キューボラ 1階 川口市)